



第1地域 ロータリー会員増強コーディネーター補佐 花田 勝彦 (五所川原 RC)

「花田さん、ロータリーの件なんだけどさ、来年、何か役割決まってる？」

田中久夫 RMC から ARMC の打診のご連絡をいただいたのは、ガバナー年度が丁度半分終わる 2024 年の大晦日のことでした。我が 2830 地区は、その年の 1 月の RI 理事会で、2026 年 7 月 1 日に会員数が 1,100 名に達しなかった場合は、隣接地区と合併することに同意するという決議がなされ、まさに緊急事態でした。地区として会員増強の崖っぷちに立たされていたガバナーですから、そのような経験が、良い意味で他の地区にも還元できるのであればと考え、ARMC の就任を承った次第です。



会員増強にとって大切なことは、クラブが魅力的であり、クラブの会員が地域で一目置かれる存在であること、そのような人が多く集まるクラブには、入会を希望する会員候補者が自然と多く現れるはずであると考えています。ロータリーを自分磨きのための適切な場所とするためにも、自分自身の一挙手一投足が見られているという意識をもち、立ち振る舞いや話し方にも気をつける。また、楽しくなければロータリーは続きませんから、仲間を増やし、大いに親睦を深めることも大切です。本来は、このようにして自然に会員が増えていくことが望ましいと思っていますのですが、それも今のままの地区があってこそ、という面もあります。2013 年の規定審議会で、地区の最低会員数を 1,200 名から 1,100 名に修正してもらうことに成功したのは、ほかならぬ 2540 地区と 2830 地区です（決議 13-109）。その 2 つの地区が、今 1,100 名を下回ることによって地区合併の危機に立たされています。ここは何としても乗り越えていきたいところです。

会員を増やすための具体的な方策としてまず考えられるのは、衛星クラブの設立でしょう。8 名の会員候補者を集めて、従来型のクラブではできない特徴あるクラブを設立することができることから、多くの地区で取り組んでいることと思います。既存のクラブ内で会費を抑え、会員数を増やす方法として、2830 地区で昨年以來取り組んできたことは、クラブ独自の正会員の種別を多様化することです。ファミリー会員、後継者会員、シニア会員、特別会員など、これまでは会費負担が大きく、正会員へのハードルが高かった方を会員としてお迎えできる方策の 1 つです。導入に当たっては、クラブ細則を改正する必要があるため、クラブ細則の改正案を作成しました。

My ROTARY のラーニングセンターの左上「ユーザーメニュー」に「学習トピック」という項目があります。下の方にスクロールして、「もっと読み込む」をクリックして進んで行くと「柔軟性を取り入れたクラブ細則の実例」というタイトルで、細則案を掲載しています。RI 日本事務局の尾畑さんにアップしていただきましたので、導入を検討しているクラブは是非ご参照下さい。

ので、導入を検討しているクラブは是非ご参照下さい。

<https://learn.rotary.org/members/share/asset/view/37278>

アクセスには My ROTARY へのロ



グインが必要です。



コーディネーター NEWS

2026年5月号 No.2

発行：Region 1, 2 & 3
RMC, RPIC, RRFC, E/MGA, EPNC
行動計画推進リーダー
国際大会推進チーム

第2地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 古川 静男 (松本西南 RC)

ロータリー財団では、日本から海外へ留学する学生のためにグローバル補助金を利用した奨学金制度を準備しています。このグローバル補助金による奨学金を利用できるのは、ロータリーの7つの重点分野のいずれかに該当する分野を専攻することが条件となっており、①平和構築と紛争予防、②疾病予防と治療、③水と衛生、④母子の健康、⑤基本的教育と識字率向上、⑥地域社会の経済発展、⑦環境のいずれかに該当する必要があります。

グローバル補助金による奨学生の数は、2010年から2023年の**13年間で合計**



421名 (年平均32名) となっています。コロナ禍で一時減少しましたが、直近5年間では、令和6年度50名、令和

5年度49名、令和4年度39名、令和3年度37名、令和2年度82名となっていました。グローバル補助金による奨学金制度は、2013年に「未来の夢計画」としてロータリー財団の補助金制度が大幅に変更されて誕生したものです

が、それ以前は「国際親善奨学金制度」というものがあり、7つの重点分野に限定されずに、音楽、芸術、文学、建築、エンジニア、自然科学、宇宙工学、経済、法学、心理学、IT等、様々な分野の学生が対象となっていました。この「国際親善奨学金制度」は1947年からスタートしましたが、2013年までの**65年間で延べ8,299名 (年平均128**

名)の留学生在がこの奨学金を利用していました。国際親善奨学金制度がなくなり、新たに「グローバル補助金」と

「地区補助金」が誕生しましたが、「グローバル補助金」は7つの重点分野により限定されたことや、「地区補助金」は各クラブでの利用が進んだため、奨学金に回る金額が少なくなり、日本からの海外留学生は以前に比べて大幅に減少しました。

この状況を憂慮した日本ロータリー学友会（元留学生で組織する地区学友会の連合体）は、2024年11月に開催された総会において、財団奨学生を増やしてほしいという「提言」を発表しました。この「提言」では、「日本や世界の未来を担う意欲ある日本の若者に、グローバル補助金の7つの重点分野に限らず、地区補助金を利用して、他のあらゆる分野を学ぶ学生に奨学金を与えて欲しい」というもので、地区補助金を利用した奨学生支援を訴えていました。

日本ロータリー学友会が2024年と2025年に34地区に実施したアンケート調査によりますと、2013年から2023年までの11年間に、地区補助金を利用して海外へ留学生を送り出した地区は**34地区中16地区**（1地区未回答）あり、**総数は194名 (年平均18名)**に留まっていました。約半分の地区が、地区補助金を利用した奨学金制度を利用

していないことが判明しました。アンケートでは、利用していない理由として、「募集可能を知らなかった」「検討

したことがない」「重点分野が要件と思っていた」という回答と共に、「地区補助金をクラブ補助金等、他の目的で使用しているため奨学金として回せる金額がない」という回答が多くみられました。

昨今の日本人留学生の実情をみますと、円安が進み、渡航費や滞在費など経済的負担が大きくなってきています。また、海外では留学生の授業料が高く設定されていて、アメリカ約1.5倍、カナダ約2倍、フランスなどは約15倍にもなっており、留学環境は年々厳しさを増している実情があります。資金調達でも「自費・仕送り」が大半を占めており、奨学金の利用が極めて少ないということで、経済的に余裕のある家庭の子供しか留学出来ないという状況が見受けられるようです。日本の学生により国際感覚を磨いてもらい、世界で活躍するリーダーとなってもらうためにも留学は貴重な体験であり、ロータリーの力で様々な分野の国際人を養成していくことはより重要性を増しているのではないかと思います。当地区では、現在地区補助金を利用して留学生を送り出していないのですが、より多くの学生がロータリー財団の奨学金を利用して留学できる方法を検討していくことも重要ではないかと考える次第です。



コーディネーター
NEWS

2026年5月号 No.3

発行：Region 1, 2 & 3
RMC, RPIC, RRFC, E/MGA, EPNC
行動計画推進リーダー
国際大会推進チーム

第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 吉田 知弘 (福岡東RC)

この度、全国のロータリアンの皆様へ広くレターを差し上げる機会を賜り、大変ありがたく存じます。私は、第3地域ロータリー財団地域コーディネーター補佐として、九州4地区の担当を仰せつかっております。会員の皆様からの寄付増進を図り、ロータリー活動の礎を創ることを役割と認識し、微力ながらも貢献できればと願っております。そのような立場から、ロータリーの諸活動に関して思うところを少しでもお伝えしたく思い、本稿を寄せます。

ロータリーの発展は、しばしば3つの要素（奉仕プロジェクト、公共イメージ、会員増強）のスパイラルによって支えられると説明されます。たしかに、①意義深く効果的な奉仕プロジェクトにより社会をよりよい状態へと導くことができれば、その実践を通じてロータリーが好意をもって社会に認知されます。②その好感度の高まりは、パートナーシップとエンゲージメントの機会を広げると同時に、メンバーの自尊心と積極的な参加意欲を高め、結束力の高まりを通じてクラブとロータリーを一層魅力的な存在へと向上させます。③このような成果の集積により、クラブ拡大と会員増強もよりよく達成されます。

この3つの要素が好循環のスパイラルを描き出す様子をイメージすると、ロータリー活動にも取り組む意欲も自ずと増すことでしょう。その一方で、意義あるロータリーの諸活動がロータリー財団への寄付によって支えられていることを忘れてはなりません。その意義をご理解いただき、是非とも寄付の増進にご理解とご協力を賜りたいと願っております。

さて、こうしたロータリーの重要な取組の一つである「ロータリー平和センター」をご紹介させてください。これは平和学に優れた大学の中に「ロータリー平和センター」を設け、世界からの留学生（ロータリー平和フェロー）を招き入れて、積極的な平和構築のエキスパート（Peace Builder）として養成し、そのスキルを高



めて世界に送り出してゆく活動です。2002年にスタートし、現在では世界に8か所、うち1つが日本の国際基督教大学に設置されています。

現在、注目を集めるイランのホルムズ海峡の封鎖問題をはじめ、国際的な武力紛争が随所で頻発しており、国際情勢は極めて不安定で危機的な状況にあります。こうした国際情勢をみるにつけ、平和への取組の重要性を思わずにはられません。平和構築の専門家を養成する平和センターの取組は、一層その重要性を増していると思われます。

国際基督教大学の平和センターのことは、これを支えるホストエリア（首都圏7地区）の外に出るとなかなか周知されない状況にあることは否めません。よくご存じの方もそうでない方も、本稿をご覧くださいましたら、是非ネットの検索エンジンで「ロータリー平和センター」を検索してみてください。その充実した取組の内容をご確認いただけることと思います。